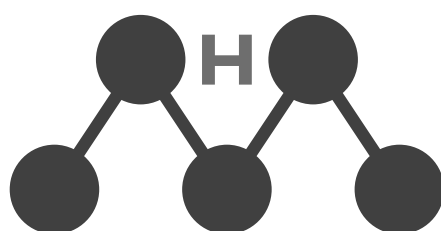


年 報

Annual report

2024 年度



社会医療法人蘇西厚生会

松 波 総 合 病 院

まつなみ健康増進クリニック

松波総合病院介護老人保健施設

まつなみ訪問看護ステーション

まつなみ訪問介護ステーション

まつなみケアプランセンター

まつなみリサーチパーク

巻 頭 言

2024 年度年報 発刊にあたり

社会医療法人蘇西厚生会

理事長 松 波 英 寿

2024 年は法人にとって今後に大きな影響を与える二つの出来事がありました。1 つは地域がん診療連携拠点病院の認定を正式に国から受けたことです。これは、岐阜医療圏のがん患者の 20 % 以上を本院が受けもっていることを意味します。すでに認定を受けている岐阜大学医学部附属病院、岐阜県総合医療センター、岐阜市民病院に次ぐ 4 番目として認定を受けたことは、非常に高いハードルを越えたとも言えます。約 8,000 の国内の病院中、がん診療連携拠点病院は 348 あり、医療法人は約 5,600 ありますが、医療法人で、がん診療連携拠点病院を受けている 23 病院のみです。すなわち、私立病院でがん診療連携拠点病院を受けることは極めて難しいことを意味しています。本院はこれまで、外科的治療・放射線治療・化学療法を三位一体とした集学的治療を推進し、患者さん中心の医療を実践してまいりましたが、その結果が結実したとも言えます。これは、ひとえに医師をはじめとした、多くの職員の努力の賜物だと思います。この場を借りて心からお礼申し上げます。残念ながら、この指定を受けたことによる経済的メリットはありませんが、医学的レベルが国に評価されたことの社会的意義は大きいと思います。

他の 1 つは、美濃市立美濃病院と海津市医師会病院とともに、医療連携推進法人の認定を県から受けたことです。これにより、3 病院による物品の共同購入が可能となったばかりでなく、人事交流、患者さん移送、医療の役割分担が進むものと考えています。特に海津市医師会病院の経営に参画させていただくことにより、海津市医師会病院の 3 階をペット（愛犬）と一緒に入院できる病棟に変換できたことは、特筆すべき事柄だと思います。まだ本邦の病院ではそのような取り組みが行われていませんが、今後、高齢独居者にとってペットと一緒に治療を受けることは本人のためにも、ペットのためにも役立つ新たな取り組みとして、注目されると思います。

臨床分野においては、救急医療・高度急性期医療を担う基幹病院として発展を続けています。また、地域包括ケアの推進に伴い、急性期から回復期、在宅まで切れ目のない医療提供体制を整えるべく、併設の介護老人保健施設、訪問看護・介護・リハビリ等の在宅事業にも力を入れてきました。蘇西厚生会は、言うまでもなく、松波総合病院がその中心となり、クリニック、老健が 3 本柱ですが、2024 年から、4 本目の柱として、訪問診療を開始しました。現時点では、まだ収入は他の 3 本柱に比し小さいですが、今後の人口の減少・高齢化、疾病構成の変化、等から考えて、必ず必要性が増す分野であり、岐阜医療圏の南部地域では十分に需要を満たしていないがゆえに、今後発展できる領域と考え、開始した次第です。高齢化率が 30 % を超える岐阜県において、医療と介護の一体的提供は喫緊の課題であり、本院はその中核的役割を担う決意を新たにしております。

新しい機器の導入に際しては、外科医の働き方改革にもつながる、2 台目のロボット（ANSUR）の導入も、本邦で 3 病院目の取り組みです。すでに多くの疾患に利用しており、外科医が一人で手術できることは、手術室スタッフの勤務時間内に予定手術が終了することに役立ち、長い目で見れば人件費削減につながる

と期待しています。

国全体を俯瞰すれば、人口減少・医療人材の偏在・財政制約といった難題が山積しております。その中
にあって、地域中核病院が果たすべき責務は一層増大しており、持続可能な病院経営と質の高い医療提供
の両立が問われております。本院は「患者第一」の理念のもとに、職員一人ひとりが誇りと責任をもって
職務に臨み、地域の皆さまに信頼される病院づくりを続けてまいります。

結びに、2024 年度を通じてご支援賜りました地域住民の皆さま、連携医療機関ならびに関係行政機関に
心より御礼申し上げます。これからも本院は、医療（臨床）・医学（研究）・医業（経営）の三位一体を柱に、
地域に根差しつつ世界水準を目指す医療機関として、未来に向けた歩みを進めてまいります。よろしくご
指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

巻 頭 言

社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院

病院長 松 波 和 寿

新型コロナウイルス感染症は「5 類」へと移行し、社会はほぼコロナ前の姿を取り戻しました。しかし、散発的な感染はなお続き、医療の現場においては依然として油断できない状況です。さらに人口減少や物価高騰、エネルギーコストの上昇、地球規模での異常気象や国際情勢の不安定さなど、医療を取り巻く環境はかつてないほど厳しさを増しています。私たちはこのような逆境の中でも、地域の皆さまに安定して質の高い医療を提供し続けるという使命を忘れることなく、不断の努力を重ねていかなければなりません。

そうした厳しい環境下でありながら、2025 年度は松波総合病院にとって記念すべき大きな節目の年を迎えます。当院は設立 125 周年を迎え、長きにわたり地域の皆さまに支えられてきた歴史を振り返るとともに、新たな未来への第一歩を踏み出す年にもなります。そして 6 月には、かねてより整備を進めてきた「西館」が完成いたします。西館の 1 階には、地域住民や患者さん、職員の健康づくりを支えるフィットイージー（医療法 42 条施設）が設置され、また最新鋭の放射線治療装置である IMRT（強度変調放射線治療）が設置されます。2 階には医局が移転し、より効率的で活発な医療連携・教育の拠点となります。3 階には県下最大規模の人間ドックが移設され、健診機能の拡充と利便性の向上を実現します。そして 4 階には大規模な会議室が新設され、学会や講演会、地域連携の場として幅広く活用される予定です。西館の完成は、125 周年にふさわしい大きな飛躍であり、当院の新しい歴史の象徴でもあります。

さらに（2025 年度年報の対象になりますが）2025 年 4 月 1 日に、長年の努力が実を結び、松波総合病院は「救命救急センター」の指定を受けました。これは岐阜県南部地域における救急医療の中核として、24 時間 365 日重症患者を受け入れる体制が公式に認められたことを意味します。単に救急患者を診るだけでなく、災害医療や高度医療、地域連携の司令塔として地域の「最後の砦」となる重大な役割を担うこととなりました。地域の命を守り抜くという重い責務を改めて胸に刻み、私たちはさらなる覚悟をもって日々の診療に臨んでまいります。

すでに 2024 年度には「地域がん診療連携拠点病院」としての認定も受けており、がん医療と救急医療という二つの柱を確立したことで、当院は地域基幹病院としての責務をさらに強固に果たしていくことが可能になりました。がんと救急、この二つの軸を中心に、地域の皆さまに「松波総合病院があるから安心だ」と感じていただける存在であり続けたいと考えています。

そのためには次世代を担う人材の育成が不可欠です。当院には全国から研修を希望する若い医師が集い、教育と実践を通じて力を磨いています。また「働き方改革」にも正面から取り組み、限られた時間で効率よく仕事を進めるため、IT・DX・AI といった新しい技術の導入・活用を積極的に進めています。全職員が創意工夫を発揮し、「オールマツナミ」の精神で取り組むことで、より強くしなやかな病院へと進化していくことができると確信しています。

松波総合病院は、これからも変化を恐れず挑戦を続け、125 年の歴史に新たな 1 ページを加えていきます。全職員が一丸となり、地域の命と健康を守る病院として、未来に向けて歩みを進めてまいりましょう！

巻 頭 言

社会医療法人蘇西厚生会

特別顧問 森 脇 久 隆

社会医療法人蘇西厚生会は地域医療機関として実に多彩な強みを発揮しています。特に 2024 年度の達成事項として先ず地域医療連携推進法人「美濃国地域医療リネージュ」の形成と「地域がん診療連携拠点病院」の指定獲得が挙げられます。とくに「美濃国地域医療リネージュ」は美濃市立美濃病院、海津市医師会病院と当法人が共同で設立しました（63 頁）。岐阜県は岐阜、西濃、中濃、東濃、飛騨の 5 医療圏からなり、当法人は岐阜医療圏に立地しますが、「美濃国地域医療リネージュ」は医療圏の枠（中濃、岐阜、西濃）を超え、深刻な少子高齢化社会における地域医療連携の新しい広がりを実現するものです。すでに実地診療・人事・職員研修など多面的な動きが実現しています。また「地域がん診療連携拠点病院」は県下で 9 番目、岐阜医療圏では 4 番目の指定となります（5 頁）。さらに（2025 年度年報の対象になりますが）救命救急センターも 2025 年 4 月 1 日に指定を受けました。当院の最大の特徴は①高度医療体制・救急医療体制が充実した、②地域医療中核病院ですが、上記の設立や指定により強みが格段に進化した様子をご覧ください。

また従来から特徴として③全職員の熱意と患者さんからの信頼感が極めて高いこと、④豊富かつ高度な臨床データを解析し国際的な雑誌等に診療成績を発信し続ける研究能力・機能が高いこと、も強調してきました。③のもっとも重要な指標は患者さんご家族の絶大な信頼感から得られる剖検数だと思いますが、2024 年度は 45 件でおそらく全国トップクラス（126－128 頁）、直近 5 年間も確実にハイレベルを維持できました（258 頁）。私どもの医療に取り組む真摯な態度が反映されたものと考えたいところです。

④臨床研究の能力・機能については講演・論文の件数合計 306 点（263－301 頁）によく表れています。うち論文は 63 点（日本語 23 点、英語 40 点）で、他施設や大学との共同研究が 20 点含まれ、私共の研究機能が外部からも信頼されている表れでもあります。さらに独自の研究推進施設としてリサーチパーク（60 頁）がありますが、文部科学省科学研究費補助金助成事業の採択を受け、すでに論文も 1 編刊行しました（245 頁）。「腸内細菌代謝産物を標的としたコンディショニング法の確立」というタイトルは全国的に見ても当院でしか為し得ないものと考えます。このような施設と成果は民間病院として誇ってよい実績と考えます。

私どもはこれらの機能を伸ばしながらさらに日常臨床・業務に邁進してまいります。また 2025 年度には西館の完成に伴う人間ドックの新規サービスや運動処方の本格化が確定し、すでに活動を開始しています。年報次号も楽しみにして下さい。

巻 頭 言

社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院

特別顧問 富 田 栄 一

日本の医療・介護の環境は、今まさに大きな分岐点に立っています。少子高齢化の進展に加え、物価高や人件費の高騰など複合的な要因によって、全国の病院が経営の厳しさに直面しています。診療報酬の改定や医療制度改革もその流れの中で行われていますが、これらの変化に対応しながら持続可能な体制を築くことは容易ではありません。こうした状況だからこそ、病院単独の努力のみならず、地域全体、さらには広域的な医療連携が一層重要となっています。

そのような環境下において、本年度、松波総合病院は新たな節目を迎えることができました。2025年4月、当院は岐阜県より救命救急センターに指定されました。県内で民間病院としては初の指定であり、地域住民の命を守る砦としての使命を託されたことを意味しております。重篤な救急患者や災害時の対応など、地域の安全保障にも直結する役割を担うこととなり、その責務の重大さをあらためて職員一同実感しております。今後は医師・看護師・コメディカルが一丸となり、高度救急医療のさらなる充実と体制強化を図ってまいります。

また、当院は「病気を治す」医療にとどまらず、「健康を支える」新たな挑戦にも踏み出しました。それが、医学と運動を結びつけた画期的な試みです。疾患の種類や患者さんの状態に応じて、医学的根拠に基づいた運動療法を「処方」し、専用の施設で実際に実践していただく仕組みを導入しました。これは生活習慣病やがんの再発予防、心身機能の維持・改善など、多方面で効果が期待される取り組みであり、地域の健康寿命延伸に資する新たなモデルとなるものです。

また、一方では臨床的のみならず学術的な活動も並行して行っており、科学的な裏付けに基づいた診療を目指しております。医療界は今大きな歴史的転換期を迎えており、高齢者の増加、若い担い手の減少、高額な新薬や革新的医療機器の登場、ゲノム医療やAIの進展といった要素が複雑に絡み合い、これまで経験したことのない課題に直面しております。そのような中で私たちに求められるのは、自院の役割を冷静に見極め、地域医療の中で最適なポジションを確保しつつ、患者さんのQOLを第一に考えた質の高い医療を提供し続ける姿勢かと思います。

当院は、救急から高度医療、そして予防医学や健康増進に至るまで切れ目のない医療を提供することを目指しています。これからも地域社会とともに歩み、患者さんご家族に安心と希望をお届けできるよう努めてまいります。

皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

あ と が き

2024 年は、新型コロナウイルス感染症の「5 類」移行から 1 年が経過し、社会全体としては通常の生活や活動が戻りつつある 1 年となりました。しかし、医療現場においては依然として感染症対応の負担が続き、高齢化社会に伴う医療需要の増加や、医師の働き方改革の本格実施など、大きな課題に直面しております。

こうした状況の中、当院は地域の中核病院としての使命を果たすため、医療の質と安全を確保しながら職員一人ひとりが日々努力してきました。このたび発行する 2024 年度（令和 6 年度）年報が、蘇西厚生会全スタッフにとって自らの活動を再認識し、次年度のさらなる発展へとつながる契機となればと思います。

また、患者さんや連携医の先生方をはじめ関係各所の皆さまに、当院の取り組みをご理解いただき、信頼を深めていただけることを心より願っております。

これからも地域に必要とされる病院であり続けるため、不断の努力を重ねてまいりますので、引き続きご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

副院長 診療局長 林 慎

年 報 2024 年度

令和 7 年 11 月 発行

発行者 社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院

〒 501-6062 岐阜県羽島郡笠松町田代 185-1

TEL 058-388-0111 (代) FAX 058-388-2391
